

(様式 17)

学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称	博士 (医 学)	氏 名	喜多 歳子
審査担当者	主査	教授	藤田 博美
	副査	教授	玉城 英彦
	副査	教授	本間 さと
	副査	教授	小山 司

学 位 論 文 題 名

日本人労働者の短時間睡眠及び不眠症状と糖尿病発症リスクに関する疫学研究

2型糖尿病予防目的で、家族歴保有者を対象とした介入研究が始められている。同時に、この疾病の生活習慣要因として新たに、睡眠との関連を示す報告がある。主な研究目的は、家族歴によって睡眠による発症リスクに違いがあるのかを明らかにすることである。研究デザインは、4年間のコホート研究で、データの得られた3,570名(90.3%)を解析対象者とした。データ収集は、自記式質問紙と職域健診結果。アウトカムは、糖尿病発症とし、睡眠時間と睡眠の質を暴露因子とした。糖尿病家族歴は、両親か同胞に糖尿病歴がある者。2003年から2007年の追跡期間中、糖尿病発症者数は、121名(3.4%)、家族歴保有者数は、708名(19.8%)。解析の結果、家族歴なし群は、睡眠 \leq 5h、夜間覚醒、睡眠不足感、睡眠不満が糖尿病発症リスクと関連していた。家族歴保有群は、家族歴なし群に比べて小さなORを示し、有意な関連はみられなかった。この研究で、家族歴がない者にも、睡眠という特異な生活習慣上のリスクがあることが明らかになった。

質疑応答で、コホート研究での申請者の役割、糖代謝における入眠時刻の重要性、家族歴によるリスクの違いとインスリン抵抗性の関連、サンプル数と統計的有意性、糖尿病と睡眠障害の因果の方向性、インスリン抵抗性とは何か、尺度を自己報告とする妥当性などの質問に対しても、申請者は自身の研究結果や先行研究を引用し、おおむね妥当な回答をしていた。

この論文は、日本人労働者の睡眠が糖尿病発症のリスクに関与しており、その影響が家族歴保有によって異なることを初めて明らかにしたことで高く評価され、今後、睡眠と健康に関する公衆衛生学的研究への発展が期待される。

審査員一同は、これらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ申請者が博士(医学)の単位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。